



平成 20 年 4 月 16 日

各 位

上場会社名 五洋建設株式会社
代表者名 代表取締役社長 村重 芳雄
コード番号 1893
上場取引所 東証・大証・名証各一部
問い合わせ先 経営企画部長 清水 琢三
(TEL. 03-3817-7545)

新中期経営計画「Advance 21」について

当社は、この度、平成 20 年度を初年度とする 3 カ年中期経営計画「Advance 21」（2008～2010 年度）を策定いたしましたので、お知らせいたします。

建設業は、この数年、独占禁止法の改正、公共工事における総合評価落札方式の導入、耐震偽装問題に端を発した建築基準法の改正等、まさに構造改革を迫られています。それに伴う受注競争の激化に加え、資材価格・外注費の高騰など厳しい経営環境が続いています。

その一方で、国際競争力強化のための物流機能強化の観点から、港湾・空港を核とした臨海部への投資が、官庁・民間、国内・海外ともに旺盛であり、臨海部に強みを持つ当社の力を発揮するチャンスが広がっています。また、総合評価落札方式が一般的になるなど、官民ともに真の技術競争時代を迎えています。

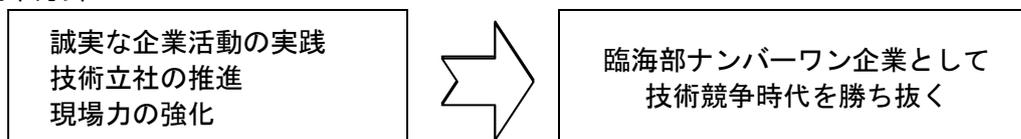
先の中期経営計画「Evolution 21」（2005～2007 年度）では、計画初年度の平成 17 年度はほぼ計画通り目標を達成しましたが、平成 18、19 年度は、上記のような計画策定時には想定していなかった急激な事業環境の変化に加え、指名停止等の影響により、当初の計画を達成できませんでした。しかしながら、最終年度の平成 19 年度は、期初の見通しを下回ったものの、前年度に比べ大幅な増益となりました。また、受注競争が激化する中、平成 18、19 年度と 2 期連続して受注が増加し、策定当初に想定していた事業量を大幅に上回ることができたことは大きな成果です。

財務面においても、資本増強ならびに棚卸資産の低価法の早期適用等、財務の健全化を前倒しで進め、有利子負債の削減目標をほぼ 1 年前倒しで達成いたしました。

新しい中期経営計画「Advance 21」においては、事業環境の変化をチャンスと捉え、利益重視の基本原則を徹底しつつ、技術競争を勝ち抜き、緩やかな事業拡大を目指してまいります。すなわち、当社グループが長年培った経験と技術をトータルに活かせる臨海部を中心に、土木、建築ともに営業強化を図り、名実ともに臨海部ナンバーワン企業を目指します。そのため、原点に戻って技術立社を推進し、現場力の強化に取り組みます。また、コンプライアンスの徹底はもとより、あらゆる過去の悪しき慣習から決別し、経営理念、中期ビジョンに掲げる CSR（企業の社会的責任）を常に意識した誠実な企業活動を実践するとともに、グループ全体でリスクマネジメントを推進し、実効ある内部統制システムを構築・運用してまいります。

新中期経営計画「Advance 21」（2008～2010 年度）の概要

●基本方針



●基本戦略

○経営力の強化 ～実効ある内部統制システムの構築・運用

- ①CSR の日常実践 ～誠実な企業活動、本業を通じた社会貢献の実践
- ②リスクマネジメントの推進 ～コンプライアンスの徹底、マイナス情報の迅速な伝達、リスクの早期発見と適切な対応
- ③コーポレートガバナンスの強化 ～全社最適、グループ最適へ、経営戦略の徹底

○本業収益力の強化 ～利益の伴った緩やかな事業量の拡大

- ①技術立社の推進 ～原点に戻って現場力（技術力、安全力、マネジメント力）を高める
 - ・技術力の更なる強化（技術提案力、事業提案力、施工技術力、コスト競争力）
 - ・品質、安全管理の徹底
- ②利益重視の徹底 ～受注時の赤字の排除、施工時の品質・安全トラブルの排除
- ③得意分野・エリアの強化 ～臨海部、大都市圏を攻める
 - ・総合評価落札方式への取り組み強化
 - ・提案型営業の強化（臨海部の民間に重点、土木・建築の協働）
 - ・建築および陸上土木の戦略的取り組み（重点分野の選択と集中）
- ④人材の確保と育成 ～団塊世代退職を見据えた人材確保と団塊世代の活用
- ⑤グループとしての競争力強化
- ⑥新規事業・将来有望分野への取り組み（環境、リニューアル、コンサルティング等）

○財務体質の健全化の継続 ～将来の成長への基盤固め

- ①有利子負債削減の継続
- ②資本の充実と資本効率の向上
- ③保有不動産の着実な売却

●経営目標

○早期復配の実現

○主要連結数値目標（最終年度、2010 年度）

		2007 年度見込み	2010 年度目標
業績目標	売上高	3,530 億円	3,800 億円
	経常利益	51 億円	100 億円
	当期純利益	25 億円	40 億円
	EPS（1 株当たり利益）	10 円	16 円以上
財務目標	有利子負債残高	1,091 億円	820 億円以下
	D/E レシオ（ネット）	1.5	1.0 以下
	ROE	4.5%	6%以上

本資料の業績予想ならびに将来計画の数値については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後さまざまな要因によって記載の数値とは異なる可能性があります。

新中期経営計画「Advance 21」概要 (2008～2010年度)

2008年4月
五洋建設株式会社

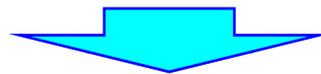
■ 建設業を取り巻く環境認識

● 景気 ～緩やかな景気拡大継続も減速懸念

- (+) 堅調な設備投資の継続、メーカーの高付加価値化の推進
- (-) サブプライムローン問題に端を発した世界的な景気後退、世界的な資源高騰

● 建設市場 ～事業環境の変化により緩やかな事業量拡大のチャンス

- 公共調達改革 ～価格のみから品質・技術重視へ
脱談合、総合評価落札方式の導入、ダンピング対策
- 経営力を問う改革 ～CSR重視、企業価値を高める経営
コンプライアンスの徹底(独禁法改正)、内部統制システムの構築(会社法、金融商品取引法)
財務の健全化(経審見直し、入札ボンドの導入)、株主価値向上(株主の要請)
- 旺盛な臨海部の建設投資 ～グローバル競争から物流効率化の強い要請
国際競争力強化の観点から国の予算の重点化(スーパー中樞港湾等)
地震・津波、高潮等の防災・減災対策、地球温暖化による海面上昇対策
臨海部の民間倉庫・流通施設の需要拡大、臨海部における大規模生産施設の建設
- 官民ともに厳しい受注競争の継続 ～真の技術競争時代へ
公共投資削減の継続、落札率の低下および資材価格の高騰等による利益率の低下
受注のためのコスト増



技術と経営に優れた企業のみが生き残る

■ Evolution21 (2005~2007) の振り返り



● 本業業績 ~ 計画を上回る事業量確保

> 計画時に想定していなかった急激な環境変化
(建設業の構造改革、指名停止等の影響など)

> 業績目標は未達も、2期連続受注増加
団塊世代退職による一般管理費の減少

○05年度: 3期連続増益、ほぼ計画達成

○06年度: 4期振りの経常減益、赤字決算
指名停止等の影響、国内土木の利益率低下
開発事業損失等の特損計上

○07年度: 着実に回復も、期首予想を下回る
国内土木、海外は採算改善も、国内建築が
資材、外注費の高騰等により採算悪化

■ 財務健全化 ~ 前倒し実施

○資本増強: CB150億円発行・転換(05年度)

○有利子負債削減: 計画通り目標達成

○資産圧縮: 04年度末比約16%削減

・不動産の売却・評価減の実施

たな卸不動産の低価法早期適用、
開発事業損失等(06年度)

・投資有価証券の売却(06年度)

退職給付信託の追加設定(07年度)

(単位: 億円、%)

		2004	Evolution21 実績及び見込み			当初目標 05年5月
			2005	2006	2007	2007
【業績目標】						
個別	建設受注高	3,241	2,744	3,430	3,735	2,850
	売上高	3,173	3,189	2,892	3,178	3,270
	売上総利益	293	307	206	226	320
	一般管理費	181	181	173	159	170
	営業利益	112	125	32	68	150
	経常利益	76	95	4	31	125
	当期純利益	16	28	-67	14	45
連結	売上高	3,452	3,546	3,232	3,530	3,550
	売上総利益	320	342	237	265	348
	一般管理費	200	200	191	177	188
	営業利益	119	141	46	88	160
	経常利益	88	113	20	51	135
	当期純利益	23	38	-58	25	50
	EPS (円)	12.5	17.1	-23.8	10.2	20円以上
【財務目標】						
連結	総資産	4,113	3,893	3,550	3,370	
	純資産	476	668	576	539	
	自己資本比率	11.6%	17.2%	16.2%	16.0%	20%以上
	有利子負債	1,652	1,356	1,104	1,091	1,100以下
	同上総資産比率	40.2%	34.9%	31.1%	32.4%	30%以下

※EPS(1株当たり当期純利益): 07年8月の株式併合(2株を1株)を考慮し、06年度以前は実績を2倍している

■ Advance 21 (2008～2010) の概要



● 基本方針

誠実な企業活動の実践
技術立社の推進
現場力の強化



臨海部ナンバーワン企業として
技術競争時代を勝ち抜く

● 基本戦略

○ 経営力の強化 ～実効ある内部統制システムの構築・運用

- ① CSRの日常実践 ～誠実な企業活動、本業を通じた社会貢献の実践
- ② リスクマネジメントの推進 ～コンプライアンスの徹底、リスクの早期発見と適切な対応
- ③ コーポレートガバナンスの強化 ～全社最適・グループ最適へ、経営戦略の徹底

○ 本業収益力の強化 ～利益の伴った緩やかな事業量の拡大

- ① 技術立社の推進 ～原点に戻って現場力(技術力、安全力、マネジメント力)を高める
- ② 利益重視の徹底 ～受注時の赤字の排除、施工時の品質・安全トラブルの排除
- ③ 得意分野・エリアの強化 ～臨海部、大都市圏を攻める
- ④ 人材の確保と育成 ～団塊世代退職を見据えた人材確保と団塊世代の活用
- ⑤ グループとしての競争力強化
- ⑥ 新規事業・将来有望分野への取り組み(環境、リニューアル、コンサルティング等)

○ 財務体質の健全化の継続 ～将来の成長への基盤固め

- ① 有利子負債削減の継続
- ② 資本の充実と資本効率の向上
- ③ 保有不動産の着実な売却

Advance 21 (2008~2010) の経営目標



- 早期復配の実現
- 主要連結数値目標(2010年度)
 - ・ 経常利益 100億円以上
 - ・ D/Eレシオ(ネット) 1.0以下

※D/Eレシオ(ネット) = (有利子負債 - 現預金) ÷ 純資産

2010年度目標

(単位: 億円)

	中期経営計画 Evolution21 (2007年度見込み)		新中期経営計画 Advance21 (2010年度目標)	
	単体	連結	単体	連結
【業績目標】				
建設受注高	3,735		3,400	
売上高	3,178	3,530	3,460	3,800
売上総利益	226	265	270	297
一般管理費	159	177	150	167
営業利益	68	88	120	130
経常利益	31	51	90	100
当期純利益	14	25	35	40
一株当たり利益		10円		16円以上
【財務目標(連結)】				
有利子負債残高	1,091 億円		820 億円以下	
D/Eレシオ(ネット)	1.5 倍		1.0 倍以下	
ROE	4.5 %		6 %以上	

